

総合学術研究科，人間学部人間学科

教授 和田実

(名古屋大学博士(教育心理学))

大学院担当科目：人間・社会科学特殊研究

専門：対人心理学，社会心理学

研究室：天白キャンパスタワー 75 1209 号室

電話：代表 052-832-1151(内線 6729)

Fax: 052-832-1311(資料室)

E-Mail: miwada@meijo-u.ac.jp

当研究室では、親密な人間関係の形成、維持、崩壊について研究しています。親密な人間関係とは、友人関係、恋愛関係、家族関係などをいいます。親密な人間関係をもつことは、我々が生きていく上でなくてはならないものです。一方で、親密な人間関係は良い面ばかりではありません。親密であるが故に生じる問題があります。たとえば、裏切りや嫉妬です。裏切りは、(ある程度)親密な関係でないと生じません。また、親密な関係が崩壊・喪失したときにもさまざまな問題が生じます。たとえば、友人関係や恋愛関係が崩壊したとき、あるいは友人や愛する人や家族が事故や病気で(突然に)亡くなったときに受ける心理的なダメージです。このような親密な人間関係の形成、維持、崩壊についてさまざまな観点から研究しています。

研究課題1. ノンバーバルコミュニケーション

我々の人間関係においては、言葉でない行動、すなわちノンバーバルコミュニケーションが非常に重要な役割を果たします。しかも、関係の初期、崩壊期にかかわらずすべての関係段階で重要な役割を果たします。たとえば、ノンバーバルコミュニケーションの使い方や嘘をつけているのかどうか(かなり)分かったりします。また、関係の初期においては、顔(表情)がもたらす情報が重要となります。自分の好みではない人に好んで話しかけようと思うことはないでしょう。顔(表情、化粧な

ど)も重要なノンバーバル行動なのです。こういったノンバーバル行動が果たす機能について研究しています。

研究課題2. 対人関係の性差

既に述べたように、親密な人間関係には明らかに性差があります。日常的には、「何で男(女)はそんなふうを考えるかなあ。」と思ってしまうことがあるでしょう。男女で関係についての考え方にどのような違いがあるのかを知ることにより、関係の維持に役立つのです。

研究課題3. 対人関係とストレス対処

ストレスとなる問題が生じた時には、良好な友人関係や恋愛関係をもっていることが精神的に良い効果をもたらします。アドバイスをくれたり、愚痴を聞いてくれたりするからです。一方で、そのストレスの原因のほとんどが対人関係からもたらされます。対人関係に問題があると、精神的健康だけでなく、肉体的健康にも悪影響を及ぼすことが知られています。いかにうまくストレスに対処できるかが重要なのです。

以上の課題に興味を持つと同時に、さまざまな分野に関心を持ち、自ら探求する意欲のある人が来ることを望みます。